

『改訂第2版 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢』 正誤表

『改訂第2版 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢』（2011年12月20日発行 第2版第1刷～2016年5月20日発行 第10刷）において、記述に誤りがありました。ここに深くお詫びし、訂正申し上げます。

2017年4月26日 メジカルビュー社編集部

		誤	正
～第10刷	p.44 Skill Up		
	p.85 Skill Up		
	p.219 筋機能の特徴 4行目	<ul style="list-style-type: none"> ●上角以外に付着する線維 ●前胸筋の機能を水平面安定化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●上角以外に付着する線維 ●前鋸筋の機能を水平面安定化させる。
	p.223 筋機能の特徴 9行目	化に寄与する。 るが、肘関節屈曲位では上腕	化に寄与する。 るが、肘関節完全屈曲位では
	p.226 図3-7, p.232 図3-22		
	p.241 上から2行目	このような場合には、内側頭の収縮を肘関節伸展に同期させることで症状が軽減することが多い。	このような場合には、肘関節伸展運動に伴う疼痛が出現する少し前の角度より、上腕三頭筋内側頭の収縮を誘発しながら肘関節伸展運動を行わせることで症状が軽減することが多い。
～第8刷	p.104 図6-45	に対し遠位から検者の 迫しながら近位へ指を する様子が触られる。	に対し遠位から検者の 迫しながら遠位へ指を する様子が触られる。
～第6刷	p.179 図1-50		
	p.240 解剖学的特徴 下から4行目	上腕三頭筋外側頭と内側頭との 外側頭は前腕の遠位1/3あたり	上腕三頭筋外側頭と内側頭との 外側頭は上腕の遠位1/3あたり
	p.258 図3-71		
～第3刷	p.255 図3-65		
第1刷	p.88 図6-14		
	p.185 筋機能の特徴 1行目	筋機能の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ●棘上筋は、肩関節の運動軸を能を考えたほうがよい。 	筋機能の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ●肩甲下筋は、肩関節の運動軸機能を考えたほうがよい。